

2025 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名			
所属	横浜国立大学 理工学部 化学・生命系学科	学年	1 年
派遣先大学	ペロール工科大学 (VIT)		
期間	2025/9/17-2025/9/28		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

インド、ペロール工科大学の研修では大変多くのことを学びました。その1つが、「どうして近年、インドは科学技術で著しい発展を遂げているのか」という疑問の答えです。たとえば、ペロール工科大学の研究室ないし講義では、研究内容に興味を持たせるような工夫が為されていたり、学生同士で高め合いながら学んでいける環境が構築されていたりしました。すなわち、インドでは良い研究者や技術者を多く排出する土壌が整っていたのです。

語学面では、主に英語のリスニング力やスピーキング力が飛躍的に向上したように思います。四六時中英語を使いながら過ごしてきたことによる影響です。一方、所謂英語学習の4技能に数えられない英語力も成長したように感じています。それは自分の英語に自信を持つ能力、英語を使うのを面倒臭がらない能力、英語を道具として扱う感覚です。これらは直接的にはないかもしれませんが、これから社会で広く英語を運用していくに際して重要な能力なのではないかと考えています。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

インドと日本には数多の差異があります。衣食住から、そこに生きる人々の性格の傾向まで、大きく異なるのです。

たとえば、食事。我々はインドではカレーが食べられていることを知っています。少々詳しい方ですと、インド料理の例としてチャイティーやラッシーなどを挙げられるかもしれません。しかし、誰が南インドではコーヒーが有名だと、インドのフルーツジュースは日本のより濃厚で美味しいとすることができるのでしょうか。

たとえば、人々の性格。我々はインド人がフレンドリーで踊るのが好きな人々だと知っています。これは、確かに事実でしょう。私は今回のインド派遣で何人ものインド人と出会い友人になりましたし、インドのダンスショーを見た日もありました。しかし、誰がインドと聞いて、シャイで真面目なインド人を想像するのでしょうか。

文化と、社会的風土の奥深さには感心するばかりであります。1つと見なされる文化の中にも、様々な事柄が存在するものです。その点を踏まえて世の中を見ることで、真の多様性、共生社会へ近づけるのではないかという気付きを得ました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

YOKOHAMA SXIP は多分に素晴らしいプログラムだと思います。学内の大半の留学プログラムより安く、さらに奨学金を支給していただける可能性もあります。少なくとも、金銭的心配は無用でしょう。

また、留学先についても、インドやオーストラリアと大変刺激的なところです。それも単に海外に行こうと言うのではなく、海外で英語を使って、学んでみようと言うのですから、これまた極めて挑戦的で自らの成長に寄与するプログラムだと考えます。

さらに副次的効果として、日本人及びインド人学生に友人、知り合いが多くできます。

とにかく、飯に迷っているのならあまり先のことを深く心配せず、参加してしまうべきプログラムだと思います。大変有意義です。



2025 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名			
所属	横浜国立大学 環境情報学府	学年	2 年
派遣先大学	ペロール工科大学		
期間	9/18~10/6		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

インドで開かれた国際学会への参加は、私の研究活動に大きな転機をもたらしました。専門であるリチウムイオン電池の安全性研究が、特に急速な発展を遂げるインドのような国々で、いかに重要かつグローバルな課題であるかを肌で感じ取ることができました。また、これまでは読み書き中心だった英語学習が、現地での議論を通じて実践的な会話力へと進化しました。多様なアクセントの中で臆せず自分の研究成果を説明し、質疑応答をこなした経験は、英語で議論できるという大きな自信になりました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

インドでの 20 日間は、毎日が五感を刺激される衝撃の連続でした。日本との根本的な違いは、多様性です。言語、宗教、文化の差が日常に混在し、物事が時間通りに進まない予測不可能な環境でした。この中で学んだのは、自分の当たり前を捨て、目の前の状況に柔軟に適應する力です。強い自己主張や交渉が求められる場面も多く、精神的なタフさと共に、日本では気づかなかった豊かさとは何かを深く内省する貴重な機会となりました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

もし参加を迷っているなら、勇気を出して飛び込むことを強く推奨します。インドは、あなたの価値観や常識を良い意味で根底から揺さぶる場所です。日本という安全で予測可能な環境から一歩出ることではしか得られない、学びがあります。短期間であっても、カオスの中で自分の目的を見失わずにやり遂げる経験は、他では得難い精神的なタフさと柔軟性を与えてくれます。机上の学習では決して得られない生きた学問と実践的なコミュニケーション能力を、ぜひ現地で掴み取ってください。

2025 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	M. K		
所属	環境情報学府 自然環境専攻	学年	2 年
派遣先大学	ベロール工科大学 Vellore Institute of Technology (VIT)		
期間	9 月 17 日～10 月 6 日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

現地学生の学問に対する姿勢が印象的であった。大学のルールが厳しいものもあるが昼夜問わず各自の勉強に取り組んでいた。また人数に対しての実験機器が十分ではないため、学び損ねるのを防ぐ目的で周囲と協力して実験を行っていた。

インド英語は訛りがあり日本人にはなじみがなく序盤は理解に苦しんだ。徐々に慣れてきて円滑に現地で知り合った多くの人と会話を行えた。やはり実践的に用いられている英語と教科書の英語は違うことを認識した。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

生活面においてかなり日本とは違っていた。自分から主張をしなければ生活が成り立たずどんな時も自分が何を欲しいか、何を望むかを積極的に発信していた。学内の売店で水を買うだけでも混雑し大声と合図を出し店員さんとコミュニケーションを取る必要がある。自分に欠けていた発信力を身に着けられた。

文化的には宗教の信仰が日本より格段に深かった。どこに行っても神様が祀られており祈りの手順なども複雑であった。日本にいと宗教理解は難しいのでグローバル理解には良い経験となった。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

インドと聞いて煙たがる人は正直多いと思います。ただ想像しているインドと実際のインドは意外と違う点が多いです。ただし毎日毎食カレーなのは事実です。今後インドと関わる人は多くないので 1 度の人生訪れてみるのは貴重な経験になると思います。クリケットを行ったり日本人というだけでインタビューを受けたり、気温 30° の中ホットティーを飲んだり、出会ったことのない辛さの食事をするなど思い出が多く人に話す話題に欠けません。英語力は正直どうにでもなるので自分のパッションを磨くために挑戦してみてください！